

# 偏微分方程式制約つき最適化問題とその応用: 演習

(付録) FreeFEM プログラムのインストールと操作方法

---

畔上 秀幸, 名古屋産業科学研究所

連続最適化および関連分野に関する夏季学校 2022,

統計数理研究所, 2022 年 8 月 8 – 10 日

# 課題 1

SIMP 型線形弾性体に対する平均コンプライアンス最小化問題 (問題 5.4) を参考にして, SIMP 型熱伝導場 (Poisson 問題) に対する平均温度<sup>1</sup> 最小化問題を次のように定義する.

## 問題 1.1 (SIMP 型 Poisson 問題)

$b : D \rightarrow \mathbb{R}$  ( $D \subset \mathbb{R}^d$ ,  $d \in \{2, 3\}$ ),  $u_D : \Gamma_D \rightarrow \mathbb{R}$  ( $\Gamma_D \subset \partial D$ ),  $p_N : \Gamma_N \rightarrow \mathbb{R}$  ( $\Gamma_N = \partial D \setminus \bar{\Gamma}_D$ ) が与えられたとき, 次を満たす関数  $u : D \rightarrow \mathbb{R}$  を求めよ.

$$-\nabla \cdot (\phi_S^\alpha(\theta) \nabla u) = b \quad \text{in } D, \quad \phi_S^\alpha(\theta) \partial_\nu u = p_N \quad \text{on } \Gamma_N, \quad u = u_D \quad \text{on } \Gamma_D$$

---

<sup>1</sup>熱コンプライアンスとよばれることもある.

## 平均温度と体積制約関数

$$f_0(\theta, u) = \int_D bu \, dx + \int_{\Gamma_N} p_N u \, d\gamma - \int_{\Gamma_D} \phi^\alpha(\theta) u_D \partial_\nu u \, d\gamma,$$
$$f_1(\theta) = \int_D (\phi_S(\theta) - c_1) \, dx$$

### 問題 1.2 (SIMP 型平均温度最小化問題)

次を満たす  $\theta$  を求めよ. ただし,  $\tilde{u}_D : D \rightarrow \mathbb{R}$  ( $\tilde{u}_D|_{\Gamma_D} = u_D$ ) とする.

$$\min_{\theta \in \mathcal{D}_\theta} \{ f_0(\theta, u) \mid f_1(\theta) \leq 0, u - \tilde{u}_D \in \mathcal{S}_\theta \text{ は問題 1.1 の解} \}$$

(設問)

1. 問題 1.1 の弱形式と Lagrange 関数  $\mathcal{L}_S(\theta, u, v)$  を求めよ.
2.  $f_0$  に対する Lagrange 関数  $\mathcal{L}_0(\theta, u, v_0)$  を求めよ.
3.  $\mathcal{L}_0$  の Fréchet 微分  $\mathcal{L}'_0(\theta, u, v_0)[\vartheta, \hat{u}, v_0]$  から自己随伴関係が成り立つことを示せ.
4.  $\mathcal{L}_{0\theta}(\theta, u, v_0)[\vartheta] = \langle g_0, \vartheta \rangle$  から  $f_0$  の勾配  $g_0$  を求めよ. ただし,  $b$  は  $\theta$  の関数ではないと仮定する.

## (解答例)

1. (問題 1.1 の弱形式) 講義資料 P. 37 問題 3.2 と同様に, 次のようにおく.

$$U = \{v \in H^1(D; \mathbb{R}) \mid v = 0 \text{ on } \Gamma_D\},$$

$$U(u_D) = \{\tilde{u}_D + v \mid v \in U, \tilde{u}_D \in H^1(D; \mathbb{R}), \tilde{u}_D = u_D \text{ on } \Gamma_D\}$$

SIMP 型 Poisson 方程式の両辺に任意の  $v \in U$  をかけて  $D$  で積分すれば,

$$\begin{aligned} - \int_D \phi^\alpha(\theta) \Delta uv \, dx &= \int_D \phi^\alpha(\theta) \nabla u \cdot \nabla v \, dx - \int_{\Gamma_N} \phi^\alpha(\theta) \partial_\nu uv \, d\gamma \\ &= \int_D bv \, dx \end{aligned} \quad (1.1)$$

Gauss-Green の定理と Dirichlet 条件が使われた. Neumann 条件も同様に,

$$\int_{\Gamma_N} \phi^\alpha(\theta) \partial_\nu uv \, d\gamma = \int_{\Gamma_N} p_N v \, d\gamma \quad (1.2)$$

(1.2) を (1.1) に代入すれば, SIMP 型 Poisson 問題の弱形式を得る.

$$\text{Find } u \in U(u_D) : \int_D \phi^\alpha(\theta) \nabla u \cdot \nabla v \, dx = \int_D bv \, dx + \int_{\Gamma_N} p_N v \, d\gamma \quad \forall v \in U$$

(解説) Dirichlet 条件は  $u$  を  $U(u_D)$  の中から見つけるという前提条件によって満たされる. このことから, Dirichlet 条件は基本境界条件ともよばれる. また, 次のような抽象的変分問題の形式でもかける.

$$\text{Find } u \in U(u_D) : a(\theta)(u, v) = l(v) \quad \forall v \in U,$$

$$\text{where } a(u, v) = \int_D \phi^\alpha(\theta) \nabla u \cdot \nabla v \, dx,$$

$$l(v) = \int_D bv \, dx + \int_{\Gamma_N} p_N v \, d\gamma.$$

問題 1.1 の Lagrange 関数  $\mathcal{L}_S(\theta, u, v)$  は、講義資料 P. 87 の第 1 式を参考に  
して、 $u \in U(u_D)$ ,  $v \in U$  に対して次式で定義される。

$$\begin{aligned}\mathcal{L}_S(\theta, u, v) &= l(v) - a(\theta)(u, v) \\ &= \int_D (-\phi^\alpha(\theta) \nabla u \cdot \nabla v + b \cdot v) dx + \int_{\Gamma_N} p_N \cdot v d\gamma \\ &\quad + \int_{\Gamma_D} \{(u - u_D)(\phi^\alpha(\theta) \partial_\nu v) + v(\phi^\alpha(\theta) \partial_\nu u)\} d\gamma\end{aligned}$$

ただし、 $\Gamma_D$  上の積分はゼロであるが、のちのために残しておく。

(解説) 上記  $\mathcal{L}_S(\theta, u, v)$  の定義において、 $u \in H^1(D; \mathbb{R})$  とすることも一案である。しかし、 $v \in U \subset H^1(D; \mathbb{R})$  の場合、 $\Gamma_D$  上で  $\partial_\nu v$  を定義できない<sup>2</sup>。そこで、「 $\Gamma_D$  上の積分はゼロである」と言い切るしかないように思われる。

---

<sup>2</sup> $\nabla v \in L^2(D; \mathbb{R}^d)$  は連続関数ではない。

2. ( $f_0$  に対する Lagrange 関数) 講義資料 P. 87 の第 2 式を参考にして,

$$\begin{aligned}\mathcal{L}_0(\theta, u, v_0) &= f_0(\theta, u) + \mathcal{L}_S(\theta, u, v_0) \\ &= \int_D \{-\phi^\alpha(\theta) \nabla u \cdot \nabla v_0 + b(u + v_0)\} dx + \int_{\Gamma_N} p_N(u + v_0) d\gamma \\ &\quad + \int_{\Gamma_D} \{(u - u_D)(\phi^\alpha(\theta) \partial_\nu v_0) + (v_0 - u_D)(\phi^\alpha(\theta) \partial_\nu u)\} d\gamma\end{aligned}$$

で定義される. ここで,  $u \in U(u_D)$ ,  $v_0 \in U(u_D)$  と仮定して,  $\Gamma_D$  上の積分はゼロとみなす.



3. ( $\mathcal{L}_0$  の Fréchet 微分と自己随伴) 講義資料 P. 88 の第 1~3 式を参考にして,

$$\begin{aligned}\mathcal{L}'_0(\theta, u, v_0)[\vartheta, \hat{u}, v_0] &= \mathcal{L}_{0\theta}(\theta, u, v_0)[\vartheta] + \mathcal{L}_{0u}(\theta, u, v_0)[\hat{u}] \\ &\quad + \mathcal{L}_{0v_0}(\theta, u, v_0)[v_0] \quad \forall (\vartheta, \hat{u}, v_0) \in X \times U \times U, \\ \mathcal{L}_{0v_0}(\theta, u, v_0)[v_0] &= \mathcal{L}_{Sv_0}(\theta, u, v_0)[v_0] = \mathcal{L}_S(\theta, u, v_0) \quad \forall v_0 \in U, \\ \mathcal{L}_{0u}(\theta, u, v_0)[\hat{u}] &= \mathcal{L}_S(\theta, v_0, \hat{u}) \quad \forall \hat{u} \in U \implies v_0 = u \text{ (自己随伴)}\end{aligned}$$

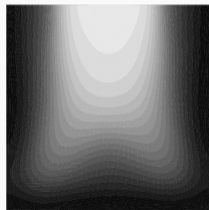
4. ( $f_0$  の勾配) 講義資料 P. 88 の第 4 式を参考にして,

$$\mathcal{L}_{0\theta}(\theta, u, v_0)[\vartheta] = \int_D \boxed{-\alpha \phi^{\alpha-1} \phi' \nabla u \cdot \nabla v_0} \vartheta \, dx = \langle g_0, \vartheta \rangle$$

## 課題 2

問題 1.2 を解くための FreeFEM の言語でかかれたプログラム (program/Poisson\_topo/0\_main.edp) を提供する. 提供されたプログラムを実行すれば, 図 2.1 (a) の結果が得られる.

(設問) 図 2.1 (b) の結果を得るには, どの定数を変更すればよいか見つけよ.



(a) 原プログラムの結果 (b) 目標とする結果 [解答:  $cD=1.0e4$ ]

図 2.1: SIMP 型熱伝導体の平均温度最小化問題

## (付録) FreeFEM プログラムのインストールと操作方法

1. **FreeFem** を <https://freefem.org/> からインストールする.
  - **Download** ボタンをクリックし、使用する OS 用のプログラムをダウンロードする.
  - インストールプログラムを実行する.
2. **FreeFEM** プログラムを実行する.
  - **EDP** ファイル (.edp) をクリックする.

## TEX がインストールされている場合

3. `1_make_graph.bat` (EDP ファイルがあるフォルダ内) は, `0_main.edp` (`0_main_errnorm.edp` がある場合はそれも含めて) 実行した後に出力されたデータファイルから **MetaPost** を使ってグラフファイルを作成するための Windows 用バッチファイルである. 実際に使う実行ファイルは,

`C:/texlive/202x/bin/win32/mpost.exe`

である. もしも, バッチファイルが使えない場合は, コマンドプロンプトあるいはターミナル (Mac) で

`%mpost graph_config.mp`

を入力する. 実行後, **EPS** 形式のグラフファイルが作成される.

4. `2_make_pdf.tex` は、**EPS** 形式のグラフファイルをまとめて、PDF ファイルに仕上げる **TEX** ファイルである。TEX コンパイラを実行すれば PDF ファイルが作成される。
5. 親フォルダ内の `1_make_graph.bat` と `2_make_pdf.tex` は、すべての子フォルダ内の **EDP** ファイルが実行された後、すべてのグラムを比較したグラフを作成するための Windows 用バッチファイルと TEX ファイルである。

### 3次元問題の場合 (VTK ファイルを出力するプログラム)

6. **ParaView** を <https://www.paraview.org/> からインストールする.
7. **ParaView** を実行し, **File** → **Open** → **plots** フォルダ内の **shape..vkt** あるいは **deform..vtk** を開く.
8. **Pipeline Browser** 内の **shape..vkt** or **deform..vtk** の左側にある目のアイコンをクリックする.
9. **Coloring** → **potential** を選択する.
10. マウスで物体を見やすい姿勢にして, **動画再生ボタン** (右向き三角のアイコン) をクリックする.